

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2026年1月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2026年1月15日～1月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 128社
- 回収率 64.0%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より5.1ポイント悪化の▲18.7となった。

2017年9月以来101ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲18.7、当月と比べ横ばいが見込まれる。

### 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2025年 8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	先行き見通し 2026年2月～ 2026年4月
業況	▲19.8	▲20.9	▲25.3	▲19.2	▲13.6	▲18.7	▲18.7
売上	▲6.6	▲6.7	▲10.0	▲4.8	▲6.4	▲3.9	▲11.8
採算	▲20.6	▲21.6	▲26.9	▲16.0	▲15.2	▲21.1	▲17.2
仕入単価	▲52.9	▲60.5	▲58.4	▲56.0	▲56.0	▲53.2	▲49.2
販売単価	19.1	21.7	23.9	26.4	20.8	26.5	25.0
従業員	28.6	33.6	35.4	35.2	32.0	34.3	38.2
資金繰り	▲15.5	▲8.9	▲14.6	▲12.8	▲15.2	▲14.9	▲14.0

### 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年 8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	先行き見通し 2026年2月～ 2026年4月
建設	▲23.4	▲24.1	▲35.5	▲34.5	▲35.7	▲34.5	▲27.6
製造	▲19.3	▲23.3	▲23.4	▲24.2	▲6.6	▲13.8	▲10.3
卸売	▲15.4	▲16.7	▲17.9	▲10.7	▲13.3	▲17.9	▲14.3
小売	▲40.0	▲44.4	▲41.2	▲17.6	▲26.7	▲35.3	▲29.4
サービス	▲6.9	▲3.7	▲12.5	▲4.6	13.7	4.0	▲16.0

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取引先の一部である本州ゼネコン発注工事が旭川ではほぼ無くなり、地元労務者の札幌他地方での出張稼働際し、経費が増大している。（総合工事）</li> <li>・求人にもコストをかけても若年層の応募が少なく、採用難は極めて深刻である。需要面でも資材高による建築費の上昇で施主の投資意欲が減退しており、今後の住宅着工に不安が残る。加えて衆院選後の財政政策が「緊縮」が「積極」かで経済情勢が大きく変わるため、その帰趨を強く注視している。（設備・その他）</li> <li>・売上低迷に加え原材料価格、外注費高による収益性が低下しているところ、住宅ローン金利引き上げの追い打ちによる新築マインドの冷え込みと他社との競合による業況悪化が懸念される。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁忙期に期待以上の売上が見込め、ひとまずは安心な状態。3月卒業に伴う離職者の補充とコスト増は当面収益を圧迫していくのに対し更なる効率アップに合わせて人材育成が必須と考えています。（食料品）</li> <li>・年度末を控えてなのか昨年末から受注大幅に増加しており外注先に協力依頼し、対応している状況。（家具・木材）</li> <li>・若干受注が増えてきており、海外からの問い合わせも出てきた。（家具・木材）</li> <li>・仕事量は前年より今のところ良好。夏頃まで見通しがある。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的な大雪の影響で季節商品の販売は価格の値上がりもあり少々よかった。しかし収まらない円安の影響は今後まだまだ流通を苦しめると感じている。（繊維衣服）</li> <li>・原料不足で原料を他県から高い価格で調達しているためコストがアップしている。（食料品）</li> <li>・事業及び従業員を大幅縮小し再生中。現在従業員を募集しているが、応募も少なく採用までには至っていない。（機械鋼材等）</li> <li>・国の政策の効果が見られず、デフレからインフレに正しく移行できていない。ただ必需品を中心にしたものの価格が高騰しているだけすべての事業者が資材、原料の高止まりで黒字に出来ていない。農業のように生産物の転換が容易なもの、安易に転換を考える。それゆえ以前のような第6次産業のような考え方がなくなりつつある。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウインターセールも落ち着き春物商品が少しずつ店頭に並び始めたが、円安の影響により前年のプライス（価格）より10%以上値上げしており、販売しづらく大変厳しい状況。セール売上も見込めず資金繰りも困難。現状を見ながら対処していくしかありません。（衣服身回品）</li> <li>・年始で限定的であったものの、海外インバウンド客の出入りが活発で全体としては大きく伸長した。買物公園周辺ではイルミネーション点灯の効果が大きく、平日にも関わらず人出は非常に多い状況が続いた。昨年に続き今年もインバウンド客の旭川来街は継続しており、観光由来の来店は堅調に推移。一方平日の地元客の利用は伸び悩んだものの、週末の来店数は非常に多く、曜日による差が顕著である。（食料品）</li> <li>・暫定税率の廃止による売上高減少が資金繰りに与える影響はまだ不確定。米国によるベネズエラやイランへの軍事的圧力が今後の原油価格変動に与える影響が心配である。（その他）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化による館内設備の不調が続出。経理が追いつかないほど人手が不足（完了まで時間がかかる）。（ホテル・旅館）</li> <li>・最低賃金の上昇を見込んで人件費予算を計上していたが、それより人件費の上昇が大きく採算の悪影響を与えている。更に働き方改革に対応するためシフト編成が硬直化し、効率的な要員配置がしづらくなっているため、生産性の低下につながり、採算は悪化している。（その他）</li> <li>・退職者の補充及び技術承継が課題であったが、経験豊富な人材に加え、20代の若手人材を確保することができた。（その他）</li> <li>・担い手不足のなかで冬期観光シーズンに入り、期待と不安が入り混じる。燃料単価が下がってくれることに期待。春の賃上げ原資の捻出は不安。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI7.3 ポイント改善、採算 DI1.4 ポイント改善、仕入単価 DI9.3 ポイント改善、販売単価 DI3.0 ポイント改善、資金 DI4.2 ポイント改善、従業員 DI12.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業 2 ポイント悪化、設備・その他横ばい、総合工事 8 ポイント改善となった。冬期に入り現場の採暖、除排雪等、経費を抑えるため工事を休止する現場が増加し、仕事に着手出来ず売上減少に苦慮との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI16.9 ポイント改善、採算 DI0.5 ポイント悪化、仕入単価 DI1.7 ポイント改善、販売単価 DI0.9 ポイント悪化、資金 DI6.5 ポイント改善、従業員 DI0.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 7.2 ポイント悪化となった。業種別では、家具・木材 11 ポイント改善、印刷・出版横ばい、食料品 14 ポイント、金属窯業他 24 ポイント悪化となった。国政選挙目前で様子見。ガソリン税等減税で値上げが一服との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI14.6 ポイント悪化、採算 DI8.2 ポイント悪化、仕入単価 DI10.3 ポイント改善、販売単価 DI1.8 ポイント改善、資金 DI6.0 ポイント改善、従業員 DI5.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.6 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等 2 ポイント、食料品 10 ポイント改善、機械鋼材、その他 13 ポイント悪化となった。新年度に入ったもののスタートダッシュは低調。昨年に提出された各営業担当者の推進計画において目標と実績に開きが大きいのが目立つとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI12.9 ポイント悪化、採算 DI15.3 ポイント悪化、仕入単価 DI7.0 ポイント悪化、販売単価 DI5.1 ポイント改善、資金 DI22.0 ポイント悪化、従業員 DI1.2 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 8.6 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品、その他横ばい、食料品 10 ポイント、自動車 25 ポイント悪化となった。観光客の来店はまだ少なくオンラインでの販売も低迷している。今後の政府の景気対策に期待との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI9.3 ポイント改善、採算 DI13.7 ポイント悪化、仕入単価 DI4.9 ポイント悪化、販売単価 DI21.2 ポイント改善、資金 DI2.4 ポイント悪化、従業員 DI13.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 9.7 ポイント悪化となった。業種別では、整備業 8 ポイント改善、理美容・クリーニング横ばい、ホテル・旅館 7 ポイント、その他 17 ポイント、飲食、運送 25 ポイント悪化となった。人件費と材料費の上昇により利益が上がらないとの声も寄せられている。</p>